

御堂筋って？



前は道頓堀の由来についてでしたが、今回は大阪市を南北に縦断するメインストリートでもある御堂筋の由来についてです。

北御堂(本願寺津村別院)と南御堂(真宗大谷派難波別院)が御堂筋の語源となっています。

浄土真宗本願寺派と大阪との関係は古く、本願寺蓮如が明応5年(1496年)に石山御坊を現在の大阪城の地に建設したのが始まりとされます。

織田信長との合戦のあと焼失し、天正19年(1591年)には豊臣秀吉の寄進により京都に本山が移転します。津村別院は当初、「津村御坊」の名で慶長2年(1597年)につくられました。



大阪市中心部ホームページより

つづく⇒



御堂筋って？



難波別院は浄土真宗の真宗大谷派と呼ばれる宗派である。文禄5年(1596年)真宗大谷派の開祖である教如が、現在の北区の花満橋と天神橋の間に位置する「渡辺の地」に大谷本願寺を開創したことに始まります。

しかし、天正11年(1583年)、豊臣秀吉が石山本願寺跡に大阪城を築城。城下町を整備していくにあたり、石山本願寺に隣接して建っていた大谷本願寺は、秀吉の命により慶長3年(1598年)現在地に移転しました。

江戸時代は、これら南北の御堂を併せて「御堂さん」として親しまれました。大阪を南北に貫く御堂筋の名前は、北御堂・南御堂と呼ばれたこの2つの別院に由来しています。

名づけ親は関一元大阪市長です。



大阪市中心区ホームページより

